味と匂い研究会2017年度活動報告

岩　﨑　陽　子

0．2017年活動概要

当研究会は、五感の中でも比較的先行研究の乏しい「味覚」と「嗅覚」を取り上げ、それらの特性を検証した上で、感覚による世界認識の新たな在り方を、アート・デザインのかたちで提言することを目的として2012年４月に京都嵯峨芸術大学（現・嵯峨美術大学）で設立された。

メンバーは嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学の教員である坂田岳彦（デザイン）、岩﨑陽子（哲学・美学）、松本泰章（メディアアート）、真板昭夫（観光デザイン）が中心となり、また学生との共同研究を行うPerfume Art Projectから成る。

前年2016年度は、京都とパリの両都市でのPerfume Art Projectとしてパリ・ボザールの学生とのアート交流、ソルボンヌ大学哲学教授・シャンタル・ジャケ先生招聘「香りと音楽」講演会開催、ロンドン大学附属・セントラル・セント・マーティンズ校のネイサン・コーエン教授講演会、ロンドンでの香りのアート講演会、パフォーマンス、教員と生徒による研究活動―香りの蒸留抽出実験／沈香の人工栽培についてレクチャー聴講／伝説の香木伝来の地・枯木神社訪問等、香り・匂いに関わる多彩な活動を精力的に実施した。

今年度も前年度にも増して海外との連携を強化し、学生交流や講演会など、特にフランス・イギリスに加え、新たにスウェーデンとの交流活動も精力的に行った。

今年も多くの方々の援助と期待を受けて、無事に計画通りにプロジェクトを実施することができた。

今年度の主な成果を挙げる。

①京都とパリにおける展覧会開催と会場アンケート実施
②スウェーデンの高齢者施設訪問と展覧会計画のための訪瑞
③学会発表、論文投稿

以下順に上記３点について詳述する。

1．京都とパリにおける展覧会開催と会場アンケート実施

①京都：Petite Balade 時の散歩 ：2017年７月７－９日 於：Forum Kyoto

４組のアーティスト（日本２組、フランス１組、イギリス１組）が、環境的匂いとスポット的匂いを使用したアート作品を展示した。

また来訪者を対象に、鑑賞前後にPOMS2短縮版、記憶の想起程度についてVASにて測定し、自由記述にて作品によって思い起こされた記憶について文章を書いてもらった。

日本語圏43名、英語圏15名のアンケート結果を入

手し、これを分析した。

②パリ：*Natsukashii* souvenirs olfactifs a(p)portés, 26-28 October 2017, at Maison duJaponin La Cité Internationale Universitaire de Paris in Paris, France

京都の巡回展として４組のアーティスト（日本２組、フランス１組、イギリス１組）が、環境的匂いとスポット的匂いを使用したアート作品を展示した。（イギリス組は新作展示）

来訪者を対象に、鑑賞前後にPOMS2短縮版、記憶の想起程度についてVASにて測定し、自由記述にて作品によって思い起こされた記憶について文章を書いてもらった。

仏語圏24名、日本語圏12名、英語圏10名のアンケート結果を入手し、分析。

※３度目の巡回展を来年2019年10月スウェーデンWanasの現代美術館の企画展として実施予定。リサーチと展覧会がセットになり、ワークショップや講演を企画。

２．スウェーデンの高齢者施設訪問と展覧会計画のための訪瑞　2017年８月

①巡回展覧会をスウェーデンで開催する計画について、現地の美術館との交渉ならびに現地アーティストとの打ち合わせを実施した。

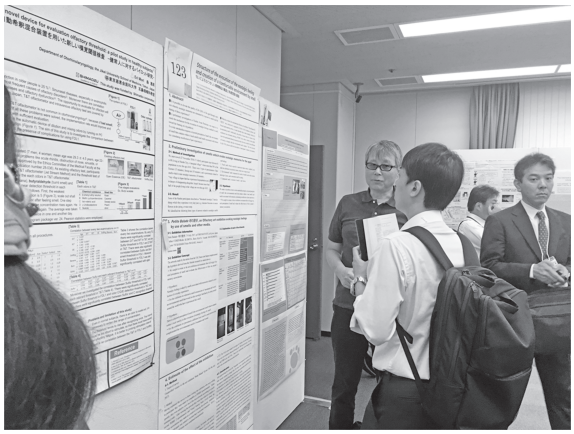
②福祉先進国であるスウェーデンの高齢者施設での匂いに関する現状と、今後の調査について情報交換を実施した。

３．学会発表、論文投稿

①第51回日本味と匂い学会　2017年９月25日－27日於神戸国際会議場

「匂いによるなつかしい感情喚起の構造と快適空間の創造」ポスター発表。

また研究の概要について、同学会特別シンポジウム「味と匂とともにある健やかな生活」にて岩﨑陽子が「匂いによる快適空間の創造：アートとデザインの視点から」発表。



②嵯峨美術短期大学紀要

今年度活動内容報告、展覧会報告、スウェーデン訪問報告等を提出。